

医療・ケアについての「もしものとき」 (普及啓発用)

【目的】

人生の最終段階の在り方を考えてもらうための普及啓発

- 本人の価値観、大切にしていることなど本人を人として尊重し、本人がもっとも望む形で最期を迎えられるようにすること。
- 住み慣れた地域で自分らしく安心した生活ができるようにすること。
- 本人が希望どおりに生きられること。
- もしものときに備えることで、本人・家族の不安を減らすことができること。
- これらを考えるための“きっかけ”として普及啓発用資料を作成した。

【ターゲット】

50代以上の男女

- 50～60代は親の介護をする世代で、家族として関わることもあり、また、終末期（老後）のことを考える世代。
- 70代以上は自分自身のことであり、自分がどう生きたいか考えて、話し合っほしい世代。

【方法・使い方】

普及啓発用のツールとして活用

- いつ何が起こるか分からない人生の中で、本人の希望や大切にしていることなどを伝えておくことが、もしものときに役に立つため、話し合いが必要。
- もしものときに備えて、考えるベースや材料になるようなツールとして活用する。
- もしものときがいつなのかはわからないので、生き方を考えるものとして普及啓発する。